商工業の振興

商工会の統合も協議が進んでおり連携を密にした事業展開を図るとともに、特に中小企業振興施策として、各種商工業事業資金への預託をはじめ、商工会に対し経営改善普及事業等の財政支援を行いたいと考えております。

また、昨年購入・整備を行いました旧松江松下については、四月から新企業により操業が始まり、新産業創出と町内雇用安定確保のため最大限の有効活用に努めて参ります。

第三セクターについて

本町における第三セクター等は、現在九法人一公社となっており「奥出雲仁多米株式会社」、「株式会社奥出雲振興」、「有限会社奥出雲椎茸」、「株式会社仁多堆肥センター」等については、経営が順調に推移しておりますが、「有限会社奥出雲サンマッシュ」、「株式会社アメニティよこた」、「奥出雲町農業公社」については、健全経営に向け、抜本的な見直しが急務となっております。

平成十八年度には指定管理者制度か第三セクターにするかへの移行を検討しなければなりませんので、株主や関係者の皆さんと運営方法について早急に協議したいと考えております。

若者定住対策

依然として、過疎化や少子高齢化が進むなか、定住対策事業として造成した住宅地のPR広告等を実施し、I・Uターン世帯の移住や町内就職、定住者に対する奨励金制度を継続実施し、将来の奥出雲町を担う定住促進に努める考えであります。

②生活基盤整備

道路網の整備

国道四三二号につきましては、本年度より本格的に工事が進められるほか大仁農道から亀嵩駅方面についても特定交通安全施設等整備事業として採択を受け、工事が進められることとなっております。

主要地方道につきましては、玉湯吾妻山線の高尾工区の山切りと小馬木工区上市地内の改良工事を、上阿井八川線は大馬木地内旭、女良木工区と八川地内叶谷工区などが引き続き行われます。

一般県道につきましては、要望しています印賀横田線の万丈工区も着手され、大呂工区、下横田出雲三成停線の小麦谷地内、横田伯南線の大呂地内も引き続き施工される予定であります。

木次横田線については、土屋から郡間において、昨年度一・五車線改良が採択となり継続的に工事が進められます。

町道につきましては、交付金事業の川西五反田線、稲原地内と中村地内を引き続き施工いたします。三沢山根線、堅田地内の中国牧場入口から下阿井方面へ本年度より測量に入る予定とし、また佐白北原線については、本年度より工事着手としております。

河川事業

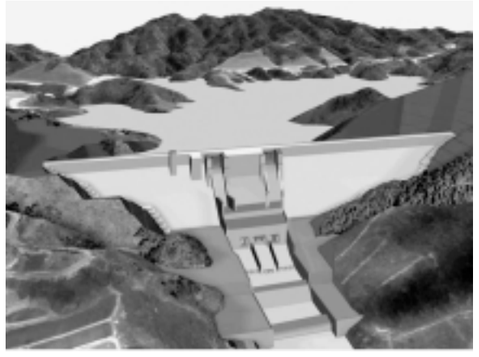
竹崎地内の斐伊川改修が継続実施されるほか、通常砂防事業として、桐の木川、木屋谷川、折渡川、山郡川、五の畑川、石原川、ホトケ谷川において継続実施されます。

急傾斜地崩壊対策事業

鋳物屋地区と雨川下地区が、また地すべり対策工事としては、鞍掛地区、上鴨倉地区が、雪崩対策事業といたしましては、大馬木地内の反保地区がそれぞれ継続施工されます。

尾原ダム建設事業

ダム本体建設工事に先立ち川の流れを一時切り替えるための、仮排水路の通水式が昨年十一月に行われ、平成十七年度末までに、本体工事が発注予定であります。また、付け替え道路として引き続き八代三沢線をはじめ、各路線が国土交通省の直轄事業として計画的に進められる予定であります。



▲いよいよ3月から本体工事に着工

ダム湖周辺整備については、「地域に開かれたダム整備計画」に基づき官民一体となった尾原ダム地域づくり活性化研究会も結成され、国土交通省、島根県、地元等関係機関と調整を図り本町の活性化に資するよう配慮して参ります。

農村整備

まず「元気な地域づくり交付金事業」として、加食東地区で国営開発農地への客土事業を継続実施し、新たに金川と古市地区を受益範囲とした圃場整備事業の調査設計を計画しております。

中山間地域総合整備事業では、引き続き横田北地区において農道整備をはじめ七事業を十七地区で実施いたします。

情報基盤の整備

平成十七年度より着手しておりますケーブルテレビ整備事業を本年度は、横田地域全域で施工し、放送を開始いたします。この事業は光ファイバーを各家庭まで引き、本年十月から始まるテレビのデジタル放送への対応や、最新技術を使った有線放送電話、高速インターネット接続が可能となるなど全国的にも注目される先駆的な情報基盤整備で、新町の一体感の醸成を図る情報基盤整備となるものと考えております。

▲「ジョーホーにた」での自主番組収録の様子

また、インターネットの利用方法など町民のみなさんに学んでいただくため各種情報講座を開設しながら、昨年導入しました「しまね電子申請サービス」の活用促進も図ってまいります。

携帯電話の不感地域の解消につきましては、昨年より各通信事業者に強力に要請を行っていますが、各事業者では、新世代携帯機器に対応した現在の通話エリアの施設改修が重点となっておりますが、そうした中で、平成十八年度、平成十九年度において、通話エリアの拡大を目指した前向きな対応も検討されておりますので、今後もさらなる要請を行うとともに、携帯電話用鉄塔間の光ケーブルの貸与など町の経費負担等も含めて各通信事業者と協議してまいります。

③安全で快適な町づくり

消防行政

消防団は、消火・防災はもとより地域の安全確保に大きな役割を果たし、地域住民から期待が寄せられており、今年度も引き続き予防消防の啓発に努め、町民の皆さんが安心して暮らせる町づくりに努めて参りたいと存じます。

また、本年の県消防操法大会は、雲南市において開催される予定で、布勢分団が自動車ポンプの部に、馬木分団が小型ポンプの部に出場することとなっており、国の別枠支援で最新鋭の自動車ポンプを導入するなど上位入賞を期待しているところであります。

水道事業

簡易水道事業につきましては、整備率がほぼ百パーに達しましたが、今後は良質な水を安定的に供給できるよう既存施設の統合と再整備を図ることとし、新たに、三成第二、横田、大馬木、雨川の各簡易水道の改修・調査・計画に着手することといたしております。

公共下水道事業につきましては、横田地区の大市、稲田、原口への管路工事を施工いたします。

また農業集落排水事業につきましては、鳥上、馬木の管路工事を施工し、大馬木地区では予算枠の関係で処理場の一部を施工する予定であります。

公営住宅について

これまで町内の教職員住宅、各職員住宅についてはそれぞれ関係部局で直接管理運営を行っていたところでありますが、入居条件や家賃に差が生じていることから、家賃の均衡と空き家の効率運用を図るため、窓口の一本化を行う考えであります。

また、既存の公営住宅の建て替えについての検討、改修、修繕を計画的に行い、優良住宅の構築と入居家賃の公平性の確保に努めて参ります。

公共交通

JR木次線全線の利用者は依然減少傾向であり、引き続き木次線強化促進協議会を中心に、利用の促進に努めて参りたいと考えております。

こうした中、トロッコ列車の運行につきましては、利用客が増加傾向にあり、特に四割が県外からの利用者で、交流人口の拡大に大きな役割を果たしており、引き続き継続運行を図ってまいります。

バス路線については、昨年度「仁多交通」を「奥出雲交通」として発足し、旧横田町で運行していた日の丸バスを昨年十月一日に奥出雲交通が路線を引き継ぎ、新たにバス二台の購入と車庫を整備し、全町的な交通網の整備を図ったところであります。

住民生活の利便確保のため一層のサービス向上と経営の安定に努めて参ります。

地域のまちづくり

高齢化社会が進展するなか、生き生きとした地域づくりを推進するため、自治会などの自主的な活性化活動に対して「ふるさとづくり助成事業」を継続実施するとともに、自治会のコミュニケーションの拠点である自治会館建設支援として、起債を活用した補助制度を引き続き行い、均衡ある集落づくりと自治会活動の充実促進を図り、鳥上公民館・診療所の新築など活力あるまちづくりを進めて参りたいと考えております。